

# あいち健康福祉ビジョン 2020 年次レポート（平成 29 年度版） （案）について

## 1 年次レポートの概要

### 年次レポートの目的

- 本県の健康福祉の進むべき方向を共有するための基本指針として、平成 28 年 3 月に「あいち健康福祉ビジョン 2020」を策定。（計画期間：平成 28 年度～32 年度の 5 年間）
- ビジョンは健康福祉分野全体の施策の方向性を示し、分野別に策定されている個別計画と一体となって福祉、保健、医療に関する取組を推進。
- ビジョンの進行管理のため、年次レポートを作成し、ビジョンに示されている施策の進行状況や新たな課題に対する取組の方向性を明らかにする。

「あいち健康福祉ビジョン 2020」の障害者支援に係る記載部分を、障害者基本法第 11 条第 2 項の規定に基づく「愛知県障害者計画」として位置付けている。

### 年次レポートの構成

- I 平成 28 年度の主な取組状況**  
ビジョンに示されている施策の平成 28 年度の主な取組状況を取り上げる。
- II 特集**  
「ともに暮らし、支え合う地域づくり」をテーマに取組状況を検証する。
- III 新たな課題への対応**  
「子どもの貧困対策の推進」についての考え方を取り上げる。

## I 平成 28 年度の主な取組状況 (P. 3~32)

### 1. 子ども・子育て支援

安心して家庭を築き、子どもを生み育てることができるよう結婚支援や、安心・安全な妊娠・出産のための支援を行った。また、親の就労の有無にかかわらず、全ての子ども・子育て家庭への支援、貧困や虐待への対応等を行った。

### 2. 健康長寿

生活習慣病の予防や早期発見・治療に向けた取組や、生活習慣改善を推進する施策、こころの健康に関する社会全体での取組等、県民が生涯を通じて健康でいきいきとした生活を送れるような様々な施策を実施した。

### 3. 医療・介護

医療従事者や介護人材の確保、質の高い医療体制の充実を図った。また、高齢化に対応した在宅医療提供体制の整備、認知症対策を推進するとともに、介護や病気の治療と仕事の両立支援に関する取組を実施した。

## 4. 障害者支援 (P. 21~26)

特別支援教育の充実に関する取組を実施した。また、障害のある人の地域生活支援や療育支援、地域における就労支援、活躍の場の拡大を図る取組等を実施するとともに、障害のある人の権利擁護の推進のための取組を実施した。

### (1) 特別支援教育の充実 (P. 21~22)

特別支援教育の支援・指導力向上を図る取組や、特別支援教育環境の充実に関する取組を実施した。

- 〈主な取組〉
- ・ 幼稚園、小・中学校の特別支援教育コーディネーター50 名を対象に、講義「特別支援教育における発達障害と愛着障害」及び演習(事例検討会)を実施
  - ・ 知立市、あま市、武豊町において、通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する支援・指導方法の研究に取り組んだ成果を指導事例集としてまとめ、県のWebページに掲載
  - ・ 特別支援学校の整備(大府もちのき特別支援学校の建設工事、尾張北東地区新設特別支援学校の実施設計)
  - ・ 知的障害特別支援学校2校(いなざわ、佐織)に各 1 台ずつスクールバスの増車(借上)

### (2) 障害のある人の地域生活支援と療育支援 (P. 23)

日常生活における相談支援が効果的に実施されるよう、人材育成や関係機関の連携を図った。重症心身障害児者や医療的ケアが必要な人が身近な地域において医療や療育が受けられるよう施設や病床の整備など地域の拠点施設を整備した。

- 〈主な取組〉
- ・ 相談支援従事者の資質向上研修を開催(現任者研修 205 名、初任者研修 303 名、専門コース 260 名)
  - ・ 瀬戸保健所において、「難病患者・家族支援のためのサポートブック」を作成し、管内市町村等に配布
  - ・ 「医療療育総合センター(仮称)重心病棟(120 床)供用開始(H28.7)、本館棟建設工事に着手(H28.12)
  - ・ 重症心身障害児者病棟(90 床)、肢体不自由児病棟(50 床)を有する三河青い鳥医療療育センター開所(H28.4)
  - ・ 「福祉ガイドブック」通常版 5,250 部、点字版 524 部、音声版(CD・カセット)各 150 部、音声コード版 1,000 部を発行し、市町村等に配布

### (3) 地域における就労支援の充実 (P. 24)

福祉施設から一般就労への移行を進める取組や、福祉施設利用者も地域で自立した生活を送れるよう、工賃水準を改善し、就労意欲の向上を図る取組を進めた。

- 〈主な取組〉
- ・ 事業主等を対象とした障害者雇用促進トップセミナーの開催(参加者 423 名)、障害者雇用優良企業等の表彰(5 事業所)
  - ・ 障害者就職面接会の開催(【学卒】企業 117 社、求職者 93 人【一般(4 回計)】企業 435 社、求職者 1,258 人)
  - ・ 愛知障害者職業能力開発校の情報システム科を IT スキル科へ科目変更し訓練を実施
  - ・ 就労アドバイザーを引き続き拠点校 2 校に配置し、少数業種(小売業、清掃業、配送業など)を開拓
  - ・ 農業分野との連携による工賃向上事業の実施
  - ・ 障害者優先調達法に基づく優先発注を推進するため、好事例集を作成し、市町村障害保健福祉主管課長会議にて優先調達の推進を依頼

#### (4) 障害のある人の活躍の場の拡大 (P. 25)

障害のある人が制作したアート作品を広く県民に鑑賞していただく取組や、障害者スポーツの裾野を広げ、幅広い方々に興味・関心を持っていただけるよう取組を進めた。

##### 〈主な取組〉

- ・「あいちアール・ブリュット展」を開催し作品提示の他、舞台発表やトークイベントを開催
- ・「第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会の開催(59,062人來場)」
- ・愛知県障害者スポーツ大会の開催(参加者:1,279人)
- ・全国障害者スポーツ大会への選手団派遣
- ・名古屋ウィメンズホイールチェアマラソンの開催(参加者数:11名)
- ・パラリンピック実施競技団体から推薦された38名の選手を強化指定し、遠征等への支援を実施

#### (5) 社会全体で支える環境の整備 (P. 26)

障害の有無にかかわらず共に暮らせる社会の実現を目指し、障害を理由とする差別の解消の推進に取り組んだ。

##### 〈主な取組〉

- ・障害者虐待防止・権利擁護及び成年後見制度推進のため、相談窓口担当者研修(3回、181名)、障害福祉サービス事業所等設置者・管理者・従事者向け研修(2回、250名)を実施
- ・矯正施設等からの障害のある退所者について退所後直ぐに福祉サービスを利用できるよう準備を行い、本人の社会復帰を支援
- ・県立高等学校において、教科「福祉」などの指導を通じた障害のある人への理解促進、介護体験等の実施による福祉教育の推進
- ・主要地方道春日井長久手線他4路線において、歩道の新設・拡幅や段差解消を実施
- ・車椅子の子供たちのための福祉衣料を開発
- ・言語や聴覚に障害がある人の緊急通報手段として、「FAX110番」「Web110番」などを整備・活用
- ・市町村の消費生活センターの設置等に向け、県と市町村の消費者行政担当課長で構成する「消費者行政連絡協議会」を開催

### 5. 健康福祉を支える地域づくり・人づくり

地域の実情にあった地域包括ケアシステムの推進や、地域福祉の担い手の育成、高齢者の社会活動への参加を促すための取組などを実施した。

## II 特集 (P. 33~73) ともに暮らし、支え合う地域づくり

#### (1) 地域包括ケアの推進

モデル事業を、県内6市において3年間(平成26年度から28年度)実施し、実施状況や課題等を他の市町村に報告した。高蔵寺ニュータウンを対象地域とする「地域包括ケア団地モデル構想」に沿って、サービス付き高齢者向け住宅の誘致に向け事業者を公募した。

#### (2) あいちオレンジタウン構想の推進

認知症サポーター養成講座や認知症支援ボランティア養成研修、認知症初期集中支援チームの設置に向けた支援、認知症カフェ等の企画・運営者向けの研修などを実施した。

認知症対策のより一層の推進を目的として、平成29年9月、「あいちオレンジタウン構想」を策定し、「認知症に理解の深いまちづくり」のモデルとなる先進的な取組を進めることとした。

#### (3) 障害及び障害のある人への理解の促進 (P. 58~66)

障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、本県では「愛知県障害者差別解消推進条例」や「手話言語の普及及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を制定し、障害を理由とする差別に関する相談窓口の整備や関係機関の連携体制の構築、NPOから企画を募り、啓発事業を実施するなど、県民の意識向上を図る取組を進めた。

また、第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会の開催やトップアスリートによる実技指導など、芸術文化活動やスポーツ活動を支援することで、障害のある人の社会参加等と障害のある人への理解の促進を図った。

##### 【取組を踏まえた今後の方向性】

- コミュニケーション環境の充実に向け、手話通訳者等の養成を行う他、カラーユニバーサルデザインガイドライン(仮称)を作成し周知する。
- 第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会の成果を継承し、障害者アーツ展、障害者支援施設での出前講座などを実施し、アートを通じた社会参加と理解の促進を図る。
- 平成30年に開催される2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知が、多様な価値観を理解する機会となるよう開催に向け準備を進める。

#### (4) 社会全体で支え合う地域づくり

社会全体で健康福祉に取り組んでいくため、高齢者の見守り活動、結婚支援、がん対策など、健康福祉分野に関して企業等と連携・協働した取組を進めた。

## III 新たな課題への対応 (P. 74~81) 子どもの貧困対策の推進

### 子どもの貧困対策の推進

平成28年12月に「愛知子ども調査」、同時に「ひとり親家庭等実態調査」を実施。有識者からなる「子どもの貧困対策検討会議」において、調査の具体的な内容から調査結果の詳細分析まで検討を行うとともに、平成29年9月に今後の本県の施策の方向性を示した「子どもが輝く未来に向けた提言」を取りまとめた。

### 2 今後のスケジュール(予定)

時 期	内 容
平成29年12月14日(木)	障害者施策審議会で意見聴取
平成29年12月下旬 ~平成30年1月下旬	社会福祉審議会、医療審議会で意見聴取
平成30年2月上旬	あいち健康福祉ビジョン推進本部で決定、公表